

令和7年度

全国学力・学習状況調査報告書

令和7年10月

当別町教育委員会

目 次

I 調査について	1
II 学力調査の状況	2
1) 教科ごとの平均正答率と平均正答数	
2) 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率と無解答率	
3) 正答率 30%以下の児童生徒の割合	
4) 全国平均正答率との差(経年変化)	
5) 結果概要	
III 学習状況調査(児童生徒質問紙・学校質問紙)の状況	4
1) 基本的生活習慣等に関すること	
2) 家庭学習等に関すること	
3) ウェルビーイングの向上に関すること(挑戦心、自己有用感、幸福感等)	
4) 授業改善等に関すること	
IV 令和8年度当別町学力向上プラン	13

I 調査について

1 目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 対象学年

- (1) 小学校（義務教育学校）第6学年
- (2) 中学校第3学年（義務教育学校第9学年）

3 内容

- (1) 教科に関する調査

対象教科	小学校調査：国語、算数、理科 中学校調査：国語、数学、理科 ※中学校調査「理科」のみ、ICT端末を用いたオンライン方式により実施
出題範囲	原則として、調査する前年の前学年までに含まれる指導事項
出題内容	①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識、技能等 ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等 調査問題では、①と②を一体的に問う
出題形式	記述式の問題を一定割合で導入

- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校質問調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 期日

教科に関する調査	令和7年4月17日（木） ※中学校調査「理科」を除く
中学校調査「理科」	令和7年4月14日（月）～4月17日（木）
児童質問調査（小学校）	令和7年4月18日（金）～4月30日（水）
生徒質問調査（中学校）	令和7年4月14日（月）～4月17日（木）
学校質問調査	令和7年4月1日（火）～4月17日（木）

5 実施した学校及び児童生徒数

	対象学校数	対象児童生徒数	参加児童生徒数	参加率
小学校 (義務教育学校前期課程を含む)	2校	73人	70人	95.9%
中学校 (義務教育学校後期課程を含む)	2校	81人	73人	90.1%
合 計	4校	154人	143人	92.9%

※参加児童生徒数は、対象となる児童生徒数のうち、当日体調不良等により参加できなかった児童生徒を除いた人数。

Ⅱ 学力調査の状況

1 教科ごとの平均正答率・平均 I R T スコア・平均正答数

(1) 小学校（義務教育学校前期課程）

	国語								算数								理科							
	平均正答率		平均正答数 / 問題数		評価の観点ごとの平均正答率 (%)			問題形式ごとの平均正答率 (%)	平均正答率		平均正答数 / 問題数		評価の観点ごとの平均正答率 (%)			問題形式ごとの平均正答率 (%)	平均正答率		平均正答数 / 問題数		評価の観点ごとの平均正答率 (%)			問題形式ごとの平均正答率 (%)
	平均正答率 (%)	平均正答数 / 問題数	知識・技能	思考・判断・表現	感情・態度	選択式	短答式	記述式	平均正答率 (%)	平均正答数 / 問題数	知識・技能	思考・判断・表現	感情・態度	選択式	短答式	記述式	平均正答率 (%)	平均正答数 / 問題数	知識・技能	思考・判断・表現	感情・態度	選択式	短答式	記述式
当別町	67.0	9.4/14	73.2	64.4	64.4	74.8	66.4	52.0	8.3/16	61.1	39.8	61.0	58.6	27.9	61.0	10.3/17	58.2	62.8	57.4	76.4	46.4			
北海道	65.0	9.2/12	73.0	62.4	63.3	76.8	58.1	55.0	8.8/16	62.6	45.5	66.4	59.7	31.4	56.0	9.6/17	54.2	58.2	53.8	69.2	44.3			
全国	66.8	9.4/14	74.5	63.8	64.7	78.5	58.8	58.0	9.3/16	65.5	48.3	67.2	64.0	34.9	57.1	9.7/17	55.3	58.7	54.7	69.7	45.2			
全国との差	+ 0.2	+0.0	▲ 1.3	+0.6	▲0.3	▲ 3.7	+7.6	▲ 6.0	▲ 1.0	▲ 4.4	▲ 8.5	▲ 6.2	▲ 5.4	▲ 7.0	+ 3.9	+ 0.6	+2.9	+4.1	+2.7	+6.7	+1.2			

(2) 中学校（義務教育学校後期課程）

	国語										数学										理科									
	平均正答率 (%)		平均正答数 / 問題数		評価の観点ごとの平均正答率 (%)			問題形式ごとの平均正答率 (%)			平均正答率 (%)		平均正答数 / 問題数		評価の観点ごとの平均正答率 (%)			問題形式ごとの平均正答率 (%)			平均 I R Tスコア		平均正答数 / 問題数		評価の観点ごとの平均正答率 (%)			問題形式ごとの平均正答率 (%)		
					知識・技能	思考・判断・表現	感情・態度	選択式	短答式	記述式					知識・技能	思考・判断・表現	感情・態度	選択式	短答式	記述式					知識・技能	思考・判断・表現	感情・態度	選択式	短答式	記述式
	平均正答率 (%)	平均正答数 / 問題数	知識・技能	思考・判断・表現	感情・態度	選択式	短答式	記述式	平均正答率 (%)	平均正答数 / 問題数	知識・技能	思考・判断・表現	感情・態度	選択式	短答式	記述式	平均 I R Tスコア	平均正答数 / 問題数	知識・技能	思考・判断・表現	感情・態度	選択式	短答式	記述式	知識・技能	思考・判断・表現	感情・態度	選択式	短答式	記述式
当別町	54.0	7.6/14	51.4	54.6	65.8	76.1	19.7	45.0	6.8/15	50.9	36.9	58.2	45.9	36.6	490	2.7/6	55.1	44.2	50.6	32.9	49.3									
北海道	54.0	7.6/14	48.8	54.8	64.0	72.9	24.3	47.0	7.0/15	53.6	36.4	56.1	49.9	36.7	505	3.0/6	62.1	41.5	54.4	46.4	44.8									
全国	54.3	7.6/14	48.1	55.3	63.9	73.6	25.3	48.3	7.2/15	54.4	39.1	54.0	52.0	39.6	503	2.9/6	61.8	41.8	54.8	44.9	44.3									
全国との差	▲ 0.3	+ 0.0	+ 3.3	▲ 0.7	+ 1.9	+ 2.5	▲ 5.6	▲ 3.3	▲ 0.4	▲ 3.5	▲ 2.2	+ 4.2	▲ 6.1	▲ 3.0	▲ 13.0	▲ 0.2	▲ 6.7	+ 2.4	▲ 4.2	▲ 12.0	+ 5.0									

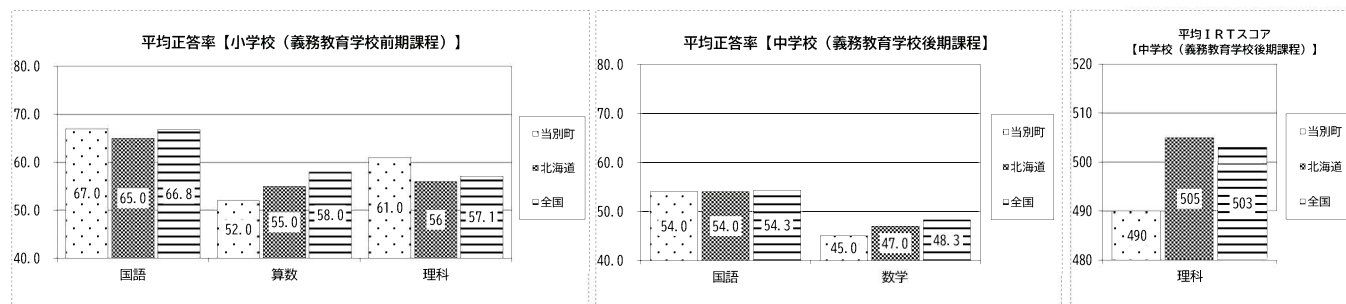
※理科（中学校）は C B T で実施し、平均 I R T スコアで結果を表示。

※平均正答率・平均正答数・平均 I R T スコアは、国から提供されたデータによる。

※平均正答率…平均正答数を百分率で表示。国語、算数ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。

※ I R T スコア… I R T（項目反応理論）に基づき、各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

※平均正答数と問題数欄は分子が平均正答数で、分母が問題数として記載。



2 全国平均を基準(100)とした場合の領域ごとの正答率と無解答率

(1) 小学校（義務教育学校前期課程）

	国語（言葉の特徴や使い方に 関する事項）	国語（情報の扱い方に 関する事項）	国語（我が国の言語文化に 関する事項）	国語（読むこと）	国語（書くこと）	国語（話すこと・聞くこと）	算数（数と式）	算数（図形）	算数（測定）	算数（変化と関係）	算数（データの活用）	理科（エネルギー）	理科（粒子）	理科（生命）	理科（地球）
問題数	2/14	1/14	1/14	3/14	3/14	4/14	8/16	4/16	2/16	3/16	5/16	4/17	6/17	4/17	6/17
正答率	当別町 93.8	104.1	102.1	95.5	106.2	101.2	88.6	92.7	91.2	83.7	90.4	101.7	102.9	118.5	102.8
	北海道 97.3	97.9	99.3	98.0	98.3	97.6	94.1	95.9	92.5	96.3	97.3	95.9	98.6	99.8	98.8
	全国 100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
無解答率	当別町 74.8	280.0	107.7	247.1	128.8	114.9	141.1	257.1	150.0	61.1	171.3	151.1	190.9	112.3	151.5
	北海道 103.5	60.0	76.9	70.6	103.0	94.8	111.4	100.0	103.9	34.7	97.2	91.5	96.5	99.4	94.2
	全国 100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(2) 中学校（義務教育学校後期課程）

	国語（言葉の特徴や使い方に 関する事項）	国語（話すこと・聞くこと）	国語（書くこと）	国語（読むこと）	数学（数と式）	数学（図形）	数学（関数）	数学（データの活用）	理科（エネルギー）	理科（粒子）	理科（生命）	理科（地球）
問題数	2/14	4/14	5/14	3/14	5/15	4/15	3/15	3/15	3/14	5/14	3/14	3/14
正答率	当別町 106.9	100.6	96.0	100.2	94.5	103.0	94.4	82.6	83.5	101.3	95.6	110.1
	北海道 101.5	101.1	97.3	99.5	99.8	96.6	96.7	93.5	99.2	102.6	97.5	97.0
	全国 100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
無解答率	当別町 140.0	215.4	97.4	94.8	109.7	111.0	93.2	162.2	0.0	57.2	0.0	0.0
	北海道 90.0	115.4	106.6	108.0	115.3	112.0	110.2	121.6	100.0	95.5	80.0	91.8
	全国 100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※教科の領域別に全国を100とした場合の状況を示したものを。

※（当別町児童生徒の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

※1つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数と一致しない場合がある。



3 正答率30%以下の児童生徒の割合・IRTバンドが1の児童生徒の割合

(1) 小学校（義務教育学校前期課程）

	国語	算数	理科
当別町	11.4%	22.9%	14.3%
北海道	8.4%	16.9%	17.1%
全国	7.7%	14.7%	16.4%
正答率30%以下となる正答数	14問中4問以下	16問中4問以下	17問中5問以下
全国との差	+ 3.7	多い	+ 2.1

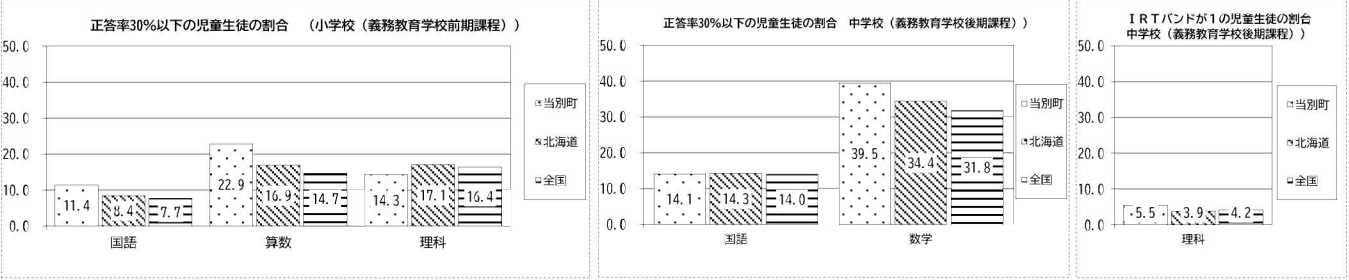
(2) 中学校（義務教育学校後期課程）

	国語	数学
当別町	14.1%	39.5%
北海道	14.3%	34.4%
全国	14.0%	31.8%
正答率30%以下となる正答数	14問中4問以下	15問中4問以下
全国との差	+ 0.1	多い

【IRTバンドが1の児童生徒の割合（中学校）】

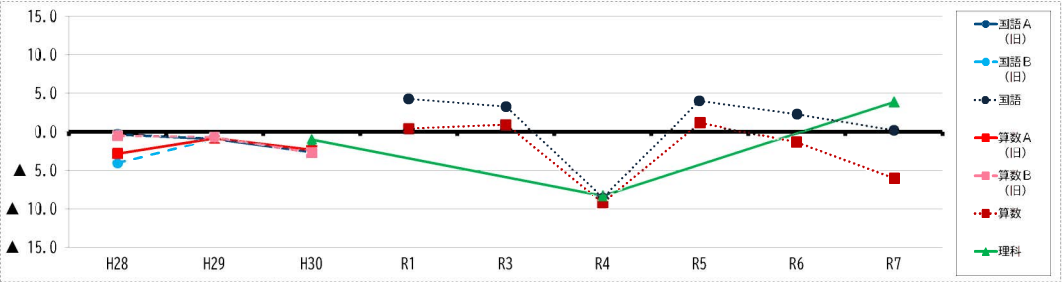
	理科
当別町	5.5%
北海道	3.9%
全国	4.2%
全国との差	+ 1.3

※IRTバンド…IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもの。3が基準バンドで、5が最も高いバンドである。

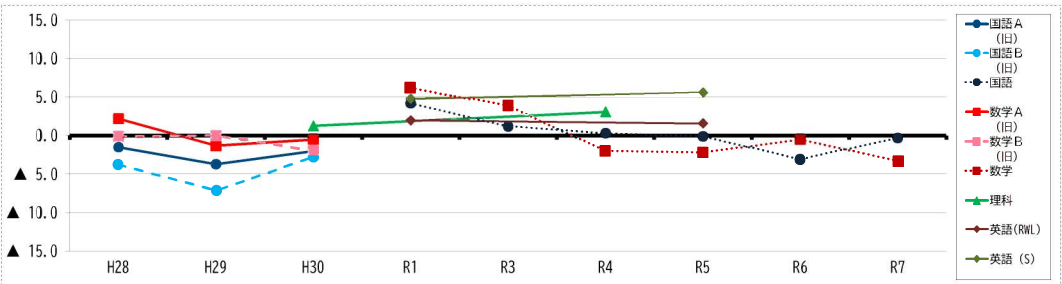


4 経年変化

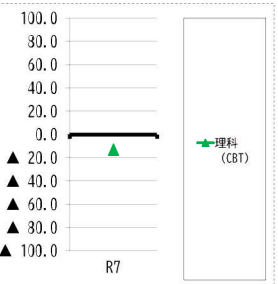
(1) 小学校（義務教育学校前期課程）



(2) 中学校（義務教育学校後期課程）



(3) 中学校（C B T調査）



※全国の平均正答率との差を表示。

※理科・英語は3年ごとに実施。

※令和2年度は中止。

※C B T調査は得点表示の形式が異なるため、別表で掲載する。

5 結果概要

(1) 教科ごとの平均正答率

- ・小学校国語・小学校理科では、全国平均を上回っています。
- ・小学校算数では、全国平均を6.0ポイント下回っており、中学校数学で全国平均を3.3ポイント下回っています。

(2) 領域ごとの正答率・無解答率

- ・小学校国語では、無解答率が6領域中5領域で全国平均を上回っています。
- ・小学校算数では、正答率が全ての領域で全国平均を下回っており、無解答率が5領域中4領域で全国平均を上回っています。
- ・中学校数学では、正答率が4領域中3領域で全国平均を下回っており、無解答率が4領域中3領域で全国平均を上回っています。
- ・小学校理科では、正答率が全ての領域で全国平均を上回っていますが、無解答率が全ての領域で全国平均を上回っています。

(3) 正答率30%以下の児童生徒の割合・IRTバンドが1の児童生徒の割合

- ・小学校理科を除き、全国平均より割合が高くなっています。

(4) 経年変化

- ・小学校理科・中学校国語では、前回と比較して、平均正答率が上がっています。
- ・中学校3年生（令和4年度の小学校6年生）は、令和4年度に小学校6年生で受験した時と比較して、国語・数学で全国平均との差を縮めています。

Ⅲ) 学習状況調査（児童生徒質問紙・学校質問紙）の状況

1. 基本的生活習慣等に関すること

（１）児童生徒質問紙

①朝食を毎日食べている（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	91.3%	89.3%	2.0%	93.7%	-2.4%
中学校3年生	83.6%	92.0%	-8.4%	91.2%	-7.6%

②毎日、同じくらいの時刻に寝ている（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	76.8%	78.7%	-1.9%	81.9%	-5.1%
中学校3年生	75.4%	84.1%	-8.7%	81.0%	-5.6%

③毎日、同じくらいの時刻に起きている（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	92.7%	93.3%	-0.6%	91.0%	1.7%
中学校3年生	93.2%	93.2%	0.0%	92.6%	0.6%

④健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生から教えられたことを、普段の生活に役立てていますか。

（「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	79.7%	84.0%	-4.3%	80.0%	-0.3%
中学校3年生	項目なし	75.0%		項目なし	

（２）学校質問紙

①近視の予防の一環として、学校の休み時間（昼休みを含む）や放課後などの時間（部活動の朝練・放課後練習を含む）に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たっての配慮事項（対象から30cm以上目を離す、30分に1回は目を休めるなど）について指導しているか（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	項目なし		81.2%	18.8%
中学校	50.0%	項目なし		40.5%	9.5%

（３）傾向と分析

【傾向】

- ・朝食を毎日食べる児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに全国平均を下回っています。
前年度との比較では、小学校では前年度の結果を上回っていますが、中学校では前年度の結果を下回っています。
- ・毎日、同じ時間に寝ている児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに全国平均を下回っています。
前年度との比較では、小学校・中学校ともに前年度の結果を下回っています。
- ・毎日、同じ時間に起きている児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに全国平均を上回っています。
前年度との比較では、小学校・中学校ともに前年度並みの結果となっています。
- ・（小学校のみの設問）健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生から教えられたことを、普段の生活に役立てている児童の割合は、全国平均を0.3ポイント下回っており、前年度との比較では、4.3ポイント下回っています。

【分析】

- ・朝食を毎日食べる習慣、規則正しい睡眠を取る習慣について、小学校・中学校ともに課題が見られる状況です。
- ・今回の調査では、児童生徒質問紙調査からスクリーンタイムの長さを問う設問が無くなった一方で、学校質問紙調査でスクリーン等を目にする際の配慮についての指導を実施したかを問う設問が追加されました。
当別町では、小学校・中学校ともに、「行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合が全国平均を上回り、特に小学校では100%となるなど、早い段階から指導に力を入れていることが伺える結果となりました。

【「前年度比」「全国比」の凡例】

〇.〇%	・・・前年度（全国平均）を上回っている項目
-〇.〇%	・・・前年度（全国平均）を下回っている項目

2. 家庭学習等に関すること

(1) 児童生徒質問紙

①学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾、家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）（「1時間以上」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	46.4%	69.3%	-22.9%	54.0%	-7.6%
中学校3年生	54.8%	54.5%	0.3%	61.6%	-6.8%

②学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（「1時間以上」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	10.1%	37.4%	-27.3%	19.6%	-9.5%
中学校3年生	19.2%	15.9%	3.3%	13.7%	5.5%

③土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾、家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用した学ぶ時間も含む）（「2時間以上」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	13.0%	18.7%	-5.7%	21.5%	-8.5%
中学校3年生	23.3%	23.9%	-0.6%	32.5%	-9.2%

(2) 学校質問紙

①家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	100.0%	0.0%	96.6%	3.4%
中学校	100.0%	100.0%	0.0%	92.8%	7.2%

②家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行っている（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	100.0%	0.0%	90.6%	9.4%
中学校	100.0%	100.0%	0.0%	85.9%	14.1%

③学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしている（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	100.0%	0.0%	90.4%	9.6%
中学校	100.0%	100.0%	0.0%	84.0%	16.0%

④児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか（「毎日持ち帰って、毎日利用させている」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	50.0%	項目なし		40.2%	9.8%
中学校	50.0%	項目なし		49.5%	0.5%

(3) 傾向と分析

【傾向】
・家庭学習の習慣については、小学校・中学校ともに全国平均を下回っている項目が多くなっています。
【分析】
・家庭学習の習慣の定着に課題が見られる状況です。 ・児童生徒質問紙の結果を前回の調査と比較すると、中学校では大きな差は見られませんが、小学校では前年度から大きく数字を下げており、小学校においては家庭学習の習慣の定着に大きな課題があることが伺えます。 ・学校質問紙調査の結果から、学校においては家庭学習の習慣の定着に向けた取組を進めていることが伺えますが、児童生徒質問紙調査の結果に結びついていないことから、今後の学校の取組と児童生徒質問紙調査の結果の推移を注視する必要があります。

3. ウェルビーイングの向上に関すること（挑戦心、自己有用感、幸福感等）

【ウェルビーイングについて】

- 身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念である。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む概念である。

【学校教育におけるウェルビーイング】

●国の次期「教育振興基本計画」のコンセプトの1つとして、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられており、ウェルビーイングに関連する主観的指標として、次の項目が示されている。（参考：中央教育審議会教育振興基本計画部会（第13回）（令和5年2月開催）会議資料「ウェルビーイングの向上について」）

- ・自分にはよいところがあると思う
- ・将来の夢や目標を持っている
- ・先生は自分のよいところを認めてくれる
- ・困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できる
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しい
- ・友人関係の満足度
- ・自分の幸福感
- ・人が困っているときは進んで助けている
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う
- ・学級をよくするために互いの意見の良さを生かして解決方法を決める
- ・勉強は好きと思う
- ・授業の内容がよく分かる

（1）児童生徒質問紙

①自分には、よいところがあると思う（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	87.0%	77.4%	9.6%	86.9%	0.1%
中学校3年生	84.9%	77.3%	7.6%	86.2%	-1.3%

②先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	94.2%	88.0%	6.2%	92.2%	2.0%
中学校3年生	90.4%	94.4%	-4.0%	92.2%	-1.8%

③将来の夢や目標を持っている（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	89.9%	90.6%	-0.7%	83.1%	6.8%
中学校3年生	68.5%	56.8%	11.7%	67.5%	1.0%

④人が困っているときは、進んで助けている（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	94.2%	90.6%	3.6%	93.7%	0.5%
中学校3年生	91.7%	86.4%	5.3%	90.9%	0.8%

⑤いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	98.6%	98.7%	-0.1%	97.2%	1.4%
中学校3年生	98.6%	97.7%	0.9%	95.9%	2.7%

⑥困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	59.4%	64.0%	-4.6%	70.6%	-11.2%
中学校3年生	74.0%	50.0%	24.0%	73.2%	0.8%

⑦学校に行くのは楽しいと思う（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	85.5%	88.0%	-2.5%	86.5%	-1.0%
中学校3年生	76.8%	88.6%	-11.8%	86.1%	-9.3%

⑧自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	79.7%	88.0%	-8.3%	78.1%	1.6%
中学校3年生	79.5%	71.6%	7.9%	79.2%	0.3%

⑨普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか（「よくある」「ときどきある」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	91.3%	90.6%	0.7%	93.0%	-1.7%
中学校3年生	94.5%	84.1%	10.4%	90.6%	3.9%

⑩友達関係に満足している（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	87.0%	84.0%	3.0%	91.7%	-4.7%
中学校3年生	94.5%	86.3%	8.2%	91.4%	3.1%

⑪地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	87.0%	93.3%	-6.3%	81.3%	5.7%
中学校3年生	79.4%	71.6%	7.8%	75.3%	4.1%

⑫学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	86.9%	84.0%	2.9%	83.3%	3.6%
中学校3年生	87.7%	85.2%	2.5%	84.3%	3.4%

⑬国語の勉強は好き（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	60.9%	73.4%	-12.5%	58.3%	2.6%
中学校3年生	60.3%	51.1%	9.2%	57.9%	2.4%

⑭国語の授業の内容はよく分かる（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	85.5%	90.7%	-5.2%	82.8%	2.7%
中学校3年生	74.0%	80.7%	-6.7%	77.0%	-3.0%

⑮算数（数学）の勉強は好き（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	60.9%	80.0%	-19.1%	57.9%	3.0%
中学校3年生	56.2%	40.9%	15.3%	53.8%	2.4%

⑯算数（数学）の授業の内容はよく分かる（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	81.2%	85.3%	-4.1%	78.3%	2.9%
中学校3年生	65.7%	68.2%	-2.5%	70.3%	-4.6%

⑰理科の勉強は好き（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	85.5%	94.7%	-9.2%	80.1%	5.4%
中学校3年生	74.0%	69.3%	4.7%	63.8%	10.2%

⑱理科の授業の内容はよく分かる（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	100.0%	項目なし		88.9%	11.1%
中学校3年生	65.8%	項目なし		71.4%	-5.6%

(2) 学校質問紙

①教員が学級の問題を抱えている場合、共に問題解決に当たることを行っている

(「週に1回程度、または、それ以上行った」「月に数回程度行った」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	100.0%	0.0%	88.5%	11.5%
中学校	100.0%	100.0%	0.0%	78.0%	22.0%

②調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っている(「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	100.0%	0.0%	94.9%	5.1%
中学校	100.0%	100.0%	0.0%	92.6%	7.4%

③調査対象学年の児童に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っている(「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	100.0%	0.0%	93.8%	6.2%
中学校	100.0%	100.0%	0.0%	92.6%	7.4%

(3) 傾向と分析

【傾向】

- ・「将来の夢や目標を持っている」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の項目では、小学校・中学校ともに全国平均を上回っています。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の項目では、小学校で全国平均を11.2ポイント下回っており、前年度比でも4.6ポイント下がっています。中学校では、前年度比で24.0ポイント上がっており、改善傾向が見られます。
- ・「学校に行くのは楽しいと思う」の項目では、小学校・中学校ともに全国平均を下回っており、前年度比でも、小学校・中学校ともに下がっています。
- ・「国語の勉強は好き」「算数(数学)の勉強は好き」「理科の勉強は好き」の項目では、小学校・中学校ともに全国平均を上回っています。

【分析】

- ・「将来の夢や目標を持っている」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の設問については、当別町で実施する独自教科「とうべつ未来学」で、ふるさと当別を知る学習・キャリア形成についての学習を実施していることが、結果に結びついているものと見られます。
- ・困りごとや不安がある時の相談体制の設問については、中学校では前年度を上回っていますが、小学校では前年度を下回る結果となりました。当別町においては、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用、校内教育支援センターの導入等の取組を進めており、学校質問紙調査の結果からも、学級の問題を組織的に解決する体制の整備に取り組んでいることが伺えますが、小学校においては、いつでも相談できるということが十分に認識されていないものと見られます。
- ・小学校・中学校ともに「学校に行くのは楽しいと思う」の項目に課題が見られます。当別町では、令和6年度にWEBアンケート式心理テスト「WEBQU」を導入し、個人・集団の心理状態・人間関係を客観的に把握できる体制づくりに取り組んでおり、今後の結果の推移を注視する必要があります。
- ・小学校・中学校ともに「授業が好き」と答える児童生徒は多い傾向ですが、中学校では「授業の内容がよく分かる」と回答した生徒の割合が少なくなっています。分かりやすい授業については、授業改善の取組と関連するものであるため、授業改善の状況についても注視する必要があります。

4. 授業改善等に関すること

(1) 児童生徒質問紙

①授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	85.5%	90.7%	-5.2%	80.3%	5.2%
中学校3年生	75.3%	78.4%	-3.1%	77.7%	-2.4%

②学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができているか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	94.2%	94.6%	-0.4%	84.9%	9.3%
中学校3年生	87.7%	87.5%	0.2%	84.7%	3.0%

③前年度までに受けた授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていたか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	89.8%	86.7%	3.1%	83.4%	6.4%
中学校3年生	86.3%	65.9%	20.4%	79.3%	7.0%

④学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	85.5%	89.3%	-3.8%	79.4%	6.1%
中学校3年生	68.5%	63.7%	4.8%	73.4%	-4.9%

⑤授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるか

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	94.2%	92.0%	2.2%	91.9%	2.3%
中学校3年生	95.9%	92.1%	3.8%	91.9%	4.0%

⑥授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか(「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校6年生	94.2%	86.7%	7.5%	71.7%	22.5%
中学校3年生	93.1%	67.0%	26.1%	76.5%	16.6%

(2) 学校質問紙

①授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うか

(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	100.0%	0.0%	89.3%	0.0%
中学校	100.0%	100.0%	0.0%	88.2%	0.0%

②授業では、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思うか

(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	100.0%	0.0%	80.4%	19.6%
中学校	100.0%	100.0%	0.0%	82.8%	17.2%

③児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思うか

(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	100.0%	0.0%	89.2%	10.8%
中学校	100.0%	100.0%	0.0%	90.8%	9.2%

④児童生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思うか

(「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	100.0%	0.0%	94.2%	5.8%
中学校	100.0%	100.0%	0.0%	95.1%	4.9%

⑤学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、

協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫している(「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	100.0%	0.0%	95.3%	4.7%
中学校	100.0%	100.0%	0.0%	95.0%	5.0%

⑥授業では、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか

(「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	100.0%	0.0%	89.9%	10.1%
中学校	100.0%	100.0%	0.0%	86.1%	13.9%

⑦教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行ったか

(「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	100.0%	0.0%	94.2%	5.8%
中学校	100.0%	100.0%	0.0%	92.5%	7.5%

⑧児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用したか

(「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	100.0%	0.0%	84.8%	15.2%
中学校	100.0%	100.0%	0.0%	82.8%	17.2%

⑨児童生徒同士がやり取りする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させているか

(「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合)

	R 7	R 6	前年度比	全国平均	全国比
小学校	100.0%	項目なし		46.3%	53.7%
中学校	50.0%	項目なし		39.3%	10.7%

(3) 傾向と分析

【傾向】
・児童生徒質問紙における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」に関する項目（①～⑤）について、小学校では全ての項目で全国平均を上回っており、中学校では5項目中3項目で全国平均を上回っています。 ・授業におけるP C・タブレットの使用については、「週3回以上使用している」と回答した割合が、小学校・中学校ともに90%を超えており、全国平均を大きく上回っています。
【分析】
・児童生徒質問紙調査・学校質問紙調査の結果から、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の定着に向けた授業改善の取組が進んでいることが伺えます。授業改善の推進が、中学校3年生（令和4年度の小学校6年生）が、令和4年度に小学校6年生で受験した時と比較して、国語・数学で全国平均との差を縮めたことに結びついたものと見られます。 ・特に、I C Tの利活用に関する設問については、全国平均を大きく上回る結果となっています。当別町では、1人1台端末の導入以降、研修機会の充実や研究主題にI C Tを活用した授業改善を位置付けるなどの取組を進めており、今回の質問紙調査の結果に結びついたものと見られます。

●当別町の学力の状況

(令和7年度「全国学力・学習状況調査」平均正答率 ※中学校理科は平均 I R T スコア)

	国語	算数／数学	理科
小学校	67.0% (全国平均以上)	52.0%	61.0% (全国平均以上)
中学校	54.0%	45.0%	490

成果

- 小学校国語・理科の平均正答率が全国平均を上回っている
(国語：+0.2% 理科：+3.9%)
- 中学校3年生が、令和4年度に小学校6年生で受験した時と比較して、全国平均との差を縮めている
(国語：-8.6% (R4) → -0.3% (R7) 算数(数学)：-9.2% (R4) → -3.3% (R7))
- 将来の夢や目標を持つ児童生徒が多い傾向にある
(小学校：+6.8% 中学校：+1.0%【全国平均比】)
- 授業が好きな児童生徒が多い傾向にある
(小学校：国語+2.6%、算数+3.0%、理科+5.4%【全国平均比】)
(中学校：国語+2.4%、数学+2.4%、理科+10.2%【全国平均比】)
- 授業改善・ICTの活用が進んでいる
(小学校：6項目で全国平均以上 中学校：4項目で全国平均以上【児童生徒質問紙調査 授業改善の推進状況・授業におけるICTの活用状況を問う設問(全6項目)】)

課題

- 算数・数学の平均正答率が全国平均を下回っている
(小学校：-6.0% 中学校：-3.3%)
- 無解答率が高い傾向にある
(小学校：15領域中13領域で全国平均以上 中学校：12領域中5領域で全国平均以上)
- 正答率30%以下の児童生徒の割合が高く、学力の底上げに課題がある
(小学校：国語・算数で全国平均以上、中学校：全教科で全国平均以上)
- 規則正しい生活習慣の定着に課題がある
(小学校・中学校ともに「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」の設問で全国平均以下【児童生徒質問紙調査】)
- 家庭学習習慣の定着に課題がある
(小学校：3項目で全国平均以下 中学校：2項目で全国平均以下【児童生徒質問紙調査 授業時間外・休日の勉強時間を問う設問(全3項目)】)

課題へのアプローチ

- 算数・数学等における学力に課題が見られる(正答率30%以下)児童生徒の増加は、前年度の学習内容の取りこぼしが原因と考えられるため、AIドリル等の有効活用により、基礎・基本の確実な習得が求められる。
- わかる楽しい授業の推進・授業の中で確実に児童生徒の力を伸ばす授業の推進に向け、学力に課題の見られる児童生徒への手立てだけでなく、学力に応じて児童生徒へ適切な指導を行うための授業改革の推進が継続的に求められる。

令和8年度 目標

「全国学力・学習状況調査」全教科の平均正答率について
「全国平均を上回る」ことを目標とする。



未来を拓く9年間



当別町小中一貫教育